

本書の構成と使い方

ほんしょ こうせい つか かた

◆ 学習する漢字について

『漢字たまご 中級1』で学習する漢字は356字です。『漢字たまご 中級1』『漢字たまご 中級2』の2冊で、日本語能力試験N3、N2レベルの漢字の学習ができます。

提出される漢字は、次の2つの種類に分かれています。

- 提出漢字**：読み方と書き方を学習します。
読める：意味と読み方がわかればよい漢字です。
後の課で「提出漢字」として再提出されるものもあります。

◆ 本書の構成

- ① 第1課～第10課
- ② 「楽しく覚えよう1/2」：漢字のパーツ（構成要素）、形声文字、記憶法を紹介しています。
- ③ 「読み方に気をつけよう1/2」：1は音の変化のルールについて説明しています。2は複数
の音読み、訓読みがある漢字の確認問題です。
- ④ 「コラム」：知っていたら役に立つ漢字を場面やテーマでまとめて紹介しています。
- ⑤ 「もう少しやってみよう」：第1課～第10課の復習問題です。Iは復習問題で、IIは学習した
漢字の他の読み方を取り上げています。

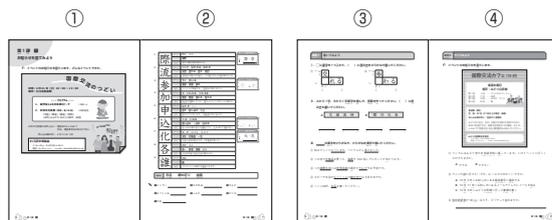
◆ 各課の構成

1課につき、4つのトピックがあります。

タイトルページのイラストは、その課の接触場面やトピックを表しています。

◆ 各トピックの構成

- ① チャレンジ
- ② 「提出漢字」「読める」
「ポイント」「1回書いてみよう」
- ③ 「練習1：書いてみよう」
- ④ 「練習2：やってみよう」



◆ ルビについて

「チャレンジ」「練習2：やってみよう」：情報を取るタスクの素材（例：図表、ポスター、地図など）にはルビはつけていません。

「練習1：書いてみよう」：文の中で漢字の読み方や書き方を問う場合、既習漢字にはルビをつけていません。地名など固有名詞にはルビをつけています。

◆ 各セクションの進め方

① チャレンジ

学習者が実際に接触する機会の多い漢字の接触場面を取り上げています。問いには自由に答えるものと、問題形式になっているものがあります。各自の既存の知識を活用し、新しい漢字の意味や読み方を推測して、問いにチャレンジします。新しく学習する漢字がどんな場面で使われているのか、そのトピックの漢字を学習することで「何ができるようになるのか」ということを意識しましょう。チャレンジの問題が難しく感じられても心配ありません。一緒に使われている言葉から推測したり、知っている漢字を探したりしてみてください。そして、その漢字がどんなところで使われているのか、どう読むのかなどを考えます。

② 「提出漢字」

この段階で覚えてほしい読み方が太字になっています。

提出漢字の通し番号

常用漢字表にない読み方は*がつけてあります。

熟字訓など特別な読み方は「ことば」の欄に<>で紹介しています。

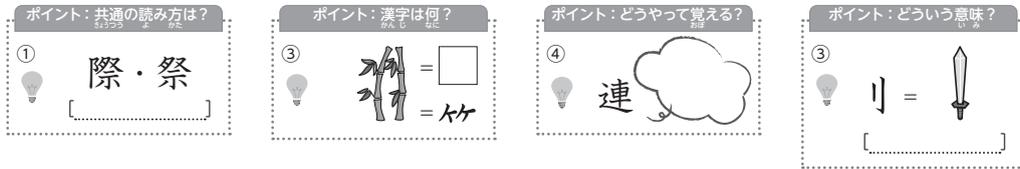
| | | |
|----|-----|--------------|
| 15 | 読み方 | たに や* コク |
| | ことば | 谷 渋谷 <長谷川さん> |
| | 例文 | 渋谷は谷になっている。 |

日本語能力試験 N3、N2 レベルの語彙を中心に、課のトピックに合ったものを載せています。太字になっている語は、N3、N2 レベルの漢字が使われている重要語やそれ以外でも覚えるのが望ましいと思われる語です。

例文の中の提出漢字にはルビがついていません。他の漢字には全部ついていて、新しい漢字に焦点を当てて、読む練習をすることができます。

ここでは、チャレンジで紹介した漢字を1字ずつ練習していきます。「楽しく覚えよう」などを参考に、漢字の覚え方を考えながら練習しましょう。できるだけいろいろな覚え方のアイディアに触れ、自分なりの漢字学習の方法を見つけましょう。

「ポイント」では、字形や読み方、送り仮名など、間違いやすいところを確認します。漢字学習ストラテジーに関するものには、💡マークがついています。パーツ（構成要素）の意味や読み方をしっかりと確認しましょう。☁️がついているところは、自分なりの記憶法を考えてみてください。



「1回書いてみよう」は、提出漢字をまず一度書いてみるスペースです。覚えるためにどのくらい書く練習が必要かは個人差があります。漢字によっても違うでしょう。練習する量は自分で考えてほしいという思いから、たくさんの練習のマスは作らず、ここでは一度書いてみるスペースを設けました。書くことを目標にしない学習者も、形をとらえるために一度書いてみることをお勧めします。

* 「漢字たまごのヒント&ポイント」が、ダウンロードできます。

漢字たまごサポートページ (凡人社ウェブサイト内)
https://www.bonjinsha.com/wp/kanjitamago_intermediate



③ 「練習1：書いてみよう」

②の練習後、提出漢字を覚えるため、読み書きの力をつけるための練習をします。さまざまな練習により、漢字が複数のパーツで構成されていることを意識化します。同時に既習の漢字と関連付け、提出漢字の整理も行います。さらに、意味のグループでまとめたり、音読み・訓読みに注意を向ける訓練をしたり、形声文字（音符）を繰り返し確認し、練習したりします。中級では、漢字語彙に注目し、漢字を組み合わせて言葉を作る練習を多く取り入れています。漢字を覚えることで語彙が増えていくことを実感してほしいと思っています。同様の練習を繰り返し行い、記憶を定着させていきます。

④ 「練習2：やってみよう」

実際の接触場面に近い状況で、必要な情報を読み取ったり、漢字を書いたりできるよう、実践練習をします。各タスクとも、正しい解答を得るのはもちろんですが、解答に至る道筋・タスク達成の方法を学ぶことが大切です。どのような点に着目すれば正しい情報が得られるか、未知の漢字語彙があった場合、その意味をどのように推測するか実際に体験します。

情報取りには、書かれたものから読み取るものと、書かれている情報と音声による情報を組み合わせる内容を読み取るものの2つのタイプがあります。どちらもまずは1人で、辞書を使わず、自分の力だけでチャレンジします。音声を聞いて答える問題では、聞く前に情報部分を見る時間を取るといいでしょう。

う。タスクの情報量は多く、未習の漢字や語彙も含まれていますが、その部分を讀んだり、意味を確認したりする必要はありません。既に知っている知識をフルに使って、わかる範囲の中で、いかに必要な情報を得ていくかが重要です。

◆ 凡例



07 音声ファイルの番号を表しています。



【?】 聴読解問題が始まることを示しています。

* 音声のストリーミング再生とMP3ファイルのダウンロードができます。

漢字たまごサポートページ（凡人社ウェブサイト内）

https://www.bonjinsha.com/wp/kanjitamago_intermediate

